

2003年1月9日

人間科学研究科委員長 殿

伊藤 教子氏 博士学位申請論文審査報告書

伊藤 教子氏の学位申請論文を下記の審査委員会は、人間科学研究科の委嘱を受け審査してきましたが、2002年12月11日に審査を終了しましたので、ここにその結果をご報告します。

記

1. 申請者氏名 伊藤 教子
2. 論文題名 混みあいに関する環境心理学的考察—公共的な空間を対象とした検討—

3. 博士論文審査要旨

1. 本論文の主旨

本論文は、公共的な空間を対象とし、人間がどのように混みあいを認識し対処しているかを環境心理学的な視点から検討したものである。その結果、目的遂行に重きが置かれる目的志向の空間は、娯楽的要素の強い娯楽志向の空間よりも、混みあいの評価が参加意向の評価に及ぼす影響が強いことが示された。この結果により、空間により、混みあいの評価が参加意向の評価に及ぼす影響が異なることが明らかとなった。

2. 本論文の構成と概要

本論文は、計7章（第1章：はじめに、第2章：過密が人間に与える影響・クラウディングに関する既往研究、第3章：本研究の目的、第4章：混みあいの評価と参加意向の評価の関係に関する検討、第5章：公共的な空間のイメージ分析及びイメージと混みあいの評価と参加意向の評価の関係に関する検討、第6章：空間のイメージが行動に及ぼす影響の検討、第7章：総合考察）から構成されている。

第1章では、環境心理学の立場から環境と人間の関係について既往モデルを概観し、環境には物理的環境とその物理的環境を人間が解釈した主観的環境の存在が考えられることが述べられた。加えて、環境と人間との相互作用において、主観的環境が重要であること、よって、この主観的環境、つまり人間にとって認知された環境を重視するという本論文の立場が述べられている。

第2章では本論文の主題である混みあいの前提となる過密が人間に及ぼす影響について、活性化を生み出す等のポジティブな側面、クラウディング（人口、人口密度とそれに附随する要因によって生じる不快感）を含むネガティブな側面について先行研究を概観しながら議論されている。ポジティブ、ネガティブの両側面を議論することで、過密が必ずしも否定的な結果をもたらすとは限らないという点が指摘されており、本論文ではこの点が重視されている。

以上を踏まえ、人間に認知された環境として、環境に対するイメージを取り上げ、この環境に対するイメージと、評価、行動との関係について明らかにするという本論文の目的が第3章で述べられている。なお、実験においては、環境の密度を知覚した段階としての混みあいの評価と、混みあいの評価に基づく環境の総合的な評価としてその環境へ行きたいかを問う参加意向の評価を採用し、この2つの評価を軸とした検討が行われた。また、本研究で実施された実験、調査は全て大学生、大学院生を対象としている。また、データの分析は因子分析以外男女別に行われ検討されている。

第4章では、まず、空間内の人数の違いにより混みあいの評価や参加意向の評価の違いが見られ

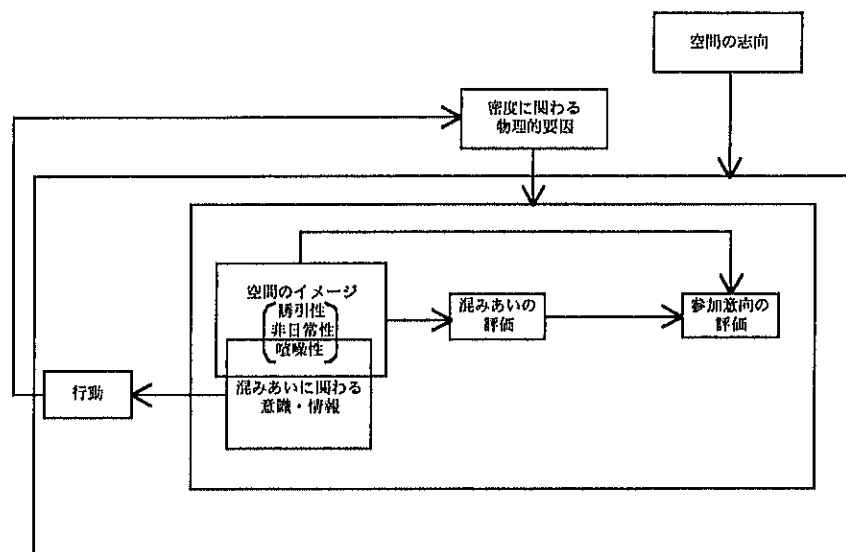
るかを明らかにするため、空間内の人数の増加に伴う混みあいの評価と参加意向の評価の関係を検討した。駅、映画館、大型店の3つの空間を取り上げ、空間内の11箇所について、人数を変化させた写真を用いた評価実験が行われた。その結果、全箇所において、人数が増加するに従い、混みあいの評価が高くなることが示された。参加意向の評価については、多くの箇所においては、被験者各自にとって、その箇所に好ましいとする人数である時に参加意向の評価が高まり、それ以上の人数でもそれ以下の人数でも評価の低下する傾向にあった。しかし、駅空間においては人数の増加に伴い評価の低下する箇所があり、人数の増加に伴う参加意向の評価の変化は、一様ではないことが示された。こうした結果は男女で共通していた。

第5章では、空間のイメージが混みあいの評価、参加意向の評価に及ぼす影響について、明らかにするために、32の公共的な空間についてSD法によるイメージ調査を行い、次いで画像提示による評価実験が行われた。その結果、イメージ調査では、因子分析結果より、第1因子では「好き-嫌い」「楽しい-夢中になる」「居心地が良い-居心地が悪い」、第2因子では「人が少ない-人が多い」「静か-騒々しい」「すいている-混んでいる」、第3因子では「日常的-非日常的」「リラックスした-緊張した」の評価尺度の因子負荷量が高かったことから、それぞれを「誘引性」、「喧噪性」、「非日常性」の因子と解釈した。この結果に基づき、3因子で記述される32の空間のクラスター分析を行い、結果的に分類された4グループそれぞれについて、目的遂行に重きを置く目的志向型、娯楽的要素の強い娯楽志向型という空間の持つ志向性という観点から説明した。空間のイメージ、混みあい、参加意向の評価の関係を検討するため、調査、実験での全データを用い、「空間のイメージ（誘引性、喧噪性、非日常性）・物理的条件（人数、人口密度）→混みあいの評価→参加意向の評価」についてパス解析を行った。その結果、男女共誘引性のイメージが低い程、喧噪性のイメージが高い程、密度が高く、人数が多い程、空間の混みあいの評価は高くなることが示された。更に、混みあいの評価が高く、誘引性のイメージが低く、喧噪性のイメージが低く、非日常性のイメージが低い程、参加意向の評価は低くなることが示された。空間により、混みあい、参加意向の両評価の関係に違いがあるかを明らかにするため、クラスター分析で分類された3つのグループ間で比較したところ、男女共に目的志向型の空間は、娯楽志向の空間よりも、混みあいの評価が参加意向の評価に及ぼす影響力が強いことが示された。

第6章では、空間のイメージが混みあいを避けるための行動の有無に及ぼす影響について検討した。第5章のイメージ分析結果に基づき、イメージの異なる空間として、デパート、遊園地、駅を評価対象として質問紙による調査が行われ、各空間のイメージ（第5章の因子分析結果に基づき作成された評価尺度）、利用の仕方（利用頻度、滞在時間）、空間での混みあいの経験、混みあい時に利用する理由が混みあいを避けるための行動の有無に及ぼす影響について判別分析により検討した。

その結果、行動に影響を及ぼしているのは、空間のイメージの中では喧噪性のみであり、滞在時間、混みあいへの許容度、混みあいの経験の有無といった、混みあいに関する要因によるものであることが示された。空間により、行動に影響を及ぼす変数が異なることが示されたが、男女では明らかな違いは見られなかった。

第7章では、第4章から第6章で得られた知見について総合的な考察が加えられている。また、そのまとめとして、新たなモデルを作成し、混みあいの評価が参加意向の評価に及ぼす影響が、空間の持つ志向性により異なることを示した。



モデル

本論文の評価

以上が本論文の概要である。本論文は、空間の持つ志向性により、混みあいの評価が参加意向の評価に及ぼす影響が異なることを明らかにした。このことから、過密が必ずしも否定的な感情を引き起こさない可能性を実証的に示している。この結果により空間により、過密による否定的な感情の強弱は異なるものであり、単に空間を広くする、或いは密度を低くすることのみで解決される問題ではなく、心理的な側面についても考慮する必要性を指摘した点で評価に値する。

上記の結果に加え、空間のイメージが行動に及ぼす影響を考慮し、独自のモデルを提案した。このモデルは、従来の説を更に更新した新たなモデルとして評価できる。

本論文の問題点としては、まず研究対象の属性が挙げられる。今回は特に大都市圏に居住する大学生、大学院生を対象として実験、調査が行われており、得られた知見を一般化するには、注意を要する。公共の空間は老若男女全ての人が利用する空間であることから、異なる属性を持つ人につ

いても検証すること、また比較することが必要である。

第2に、検証方法が挙げられる。本論文で行われた実験は、写真、画像を用いたものであり、視覚的な側面のみからの検討により得られた知見という制約がある。この点については、より現実によくした検証が必要である。

第3に、今回の評価実験等では、刺激は統一されていたが、更に個々の評価者のイメージに対応した検証を行うことが必要であると考えられる。これにより、物理的環境と主観的な環境のずれについて、より詳細な検討ができると期待される。これらの3点については、申請者も第7章で述べており、今後の研究課題として挙げられる。また、今回は、環境のイメージとして、誘因性、喧噪性、非日常性を取り上げ、混みあい、参加意向の評価、行動との関係について明らかにしているが、提唱されたモデルに更に信頼性を持たせるためには、より幅広い範囲から、環境のイメージについて捉えていく必要がある。

以上問題点はあるが、人間により認知された環境という重要な要因とされながら混みあいに関する環境評価において十分な研究が行われていない側面を、明らかにし、目的に応じた、実験、調査から混みあいに関するモデルを提案している。

以上の審査結果、本論文審査委員会は、本論文を博士（人間科学）学位を授与するに相当すると判断した。

以上

4. 伊藤 教子氏 博士学位申請論文審査委員会

主任審査員	早稲田大学 教授	博士（人間科学）（大阪大学）	野嶋栄一郎
審査委員	早稲田大学 教授	文学博士（早稲田大学）	春木 豊
審査委員	早稲田大学 教授	博士（人間科学）（早稲田大学）	齋藤 美穂
審査委員	早稲田大学 名誉教授	文学博士（早稲田大学）	相馬一郎

